



平成30年 岐阜県鉱工業指数(年報)

【平成27年基準】

1 概況

生産指数	103.9	前年比4.0%の上昇
出荷指数	105.0	前年比2.8%の上昇
在庫指数	107.6	前年比5.7%の低下

平成30年1年間の生産指数は、窯業・土石製品工業等が低下したものの、汎用・生産用・業務用機械工業、化学工業等が上昇したため、前年比4.0%の上昇となった。

また、出荷指数は、汎用・生産用・業務用機械工業、プラスチック製品工業等が上昇したため2.8%の上昇となり、在庫指数は、食料品工業、プラスチック製品工業等が低下したため5.7%の低下となった。

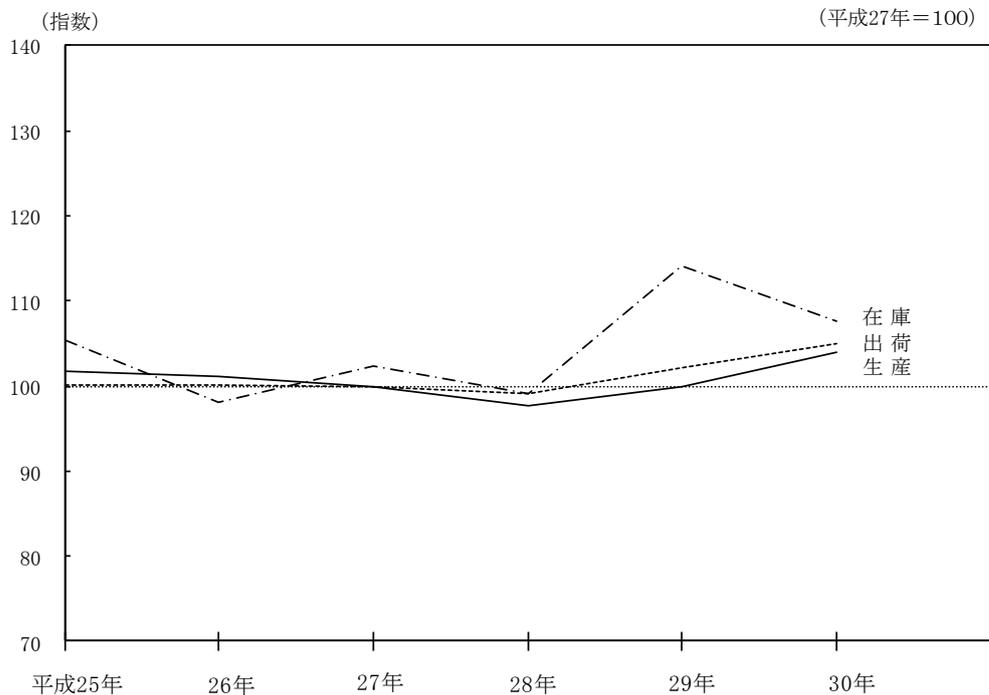
(図-1)

(平成27年=100)

区分	生産		出荷		在庫	
	指数	前年比 (%)	指数	前年比 (%)	指数	前年比 (%)
平成25年	101.8	—	100.2	—	105.4	—
26	101.2	△ 0.6	100.2	0.0	98.0	△ 7.0
27	100.0	△ 1.2	100.0	△ 0.2	102.3	4.4
28	97.6	△ 2.4	99.2	△ 0.8	99.1	△ 3.1
29	99.9	2.4	102.1	2.9	114.1	15.1
30	103.9	4.0	105.0	2.8	107.6	△ 5.7

(注) 年指数の値は、生産及び出荷指数は月指数の平均値、在庫指数は年末値による。

図-1 岐阜県鉱工業指数の推移(原指数)

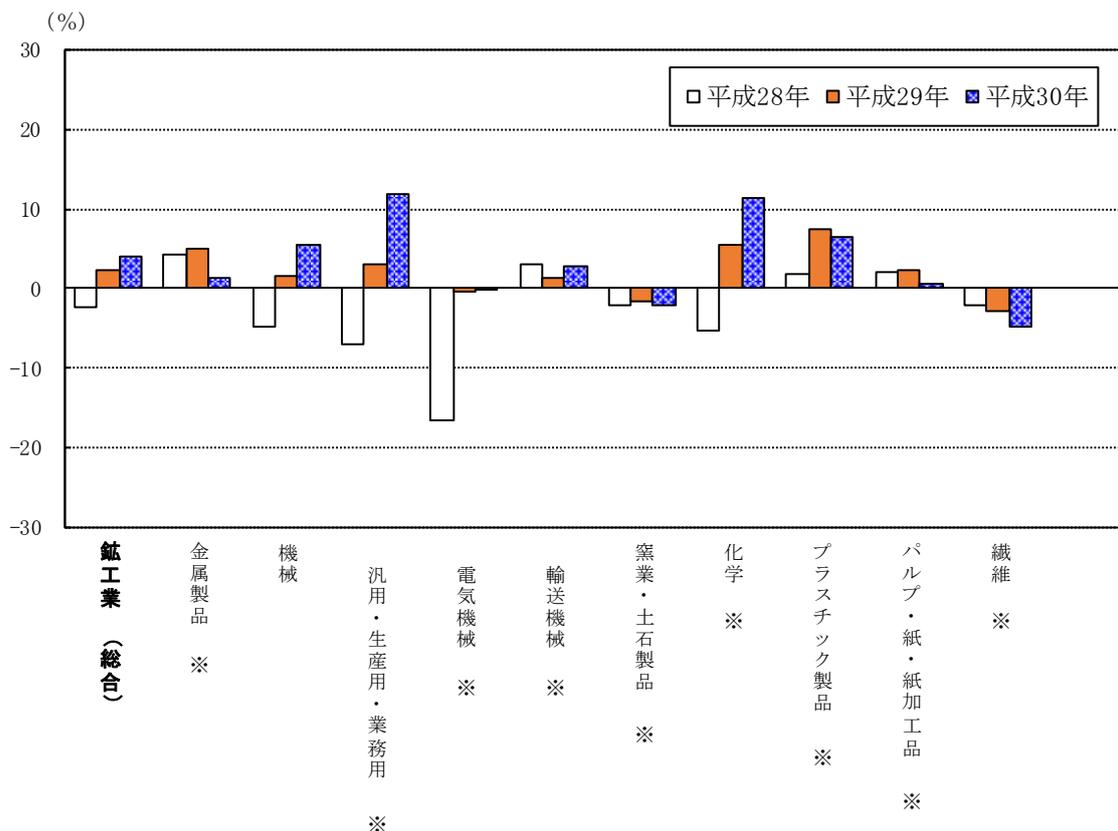


2 主要業種別生産指数の前年比

主要9業種[※]の生産指数を業種別に前年と比べると、上昇したのは、金属製品工業（前年比1.4%）、汎用・生産用・業務用機械工業（同11.9%）、輸送機械工業（同2.7%）、化学工業（同11.3%）、プラスチック製品工業（同6.6%）、パルプ・紙・紙加工品工業（同0.7%）の6業種となった。

一方、低下したのは、電気機械工業（同△0.1%）、窯業・土石製品工業（同△2.0%）、繊維工業（同△4.7%）の3業種となった。（図-2、表-1）

図-2 主要業種別生産指数の前年比の推移



3 全国、中部との生産指数の比較

平成30年の全国における生産指数は、前年比1.1%の上昇であった。

また、中部においては0.9%の上昇であった。

(平成27年=100)

区分	岐阜県		全国		中部	
	生産指数	前年比 (%)	生産指数	前年比 (%)	生産指数	前年比 (%)
平成25年	101.8	—	99.2	—	100.4	—
26	101.2	△ 0.6	101.2	2.0	102.5	2.1
27	100.0	△ 1.2	100.0	△ 1.2	100.0	△ 2.4
28	97.6	△ 2.4	100.0	0.0	100.0	0.0
29	99.9	2.4	103.1	3.1	105.7	5.7
30	103.9	4.0	104.2	1.1	106.6	0.9

(注) 「中部」とは、中部経済産業局管内5県（愛知、三重、石川、富山、岐阜）

資料：経済産業省、中部経済産業局

<平成30年 岐阜県鉱工業指数の詳細について>

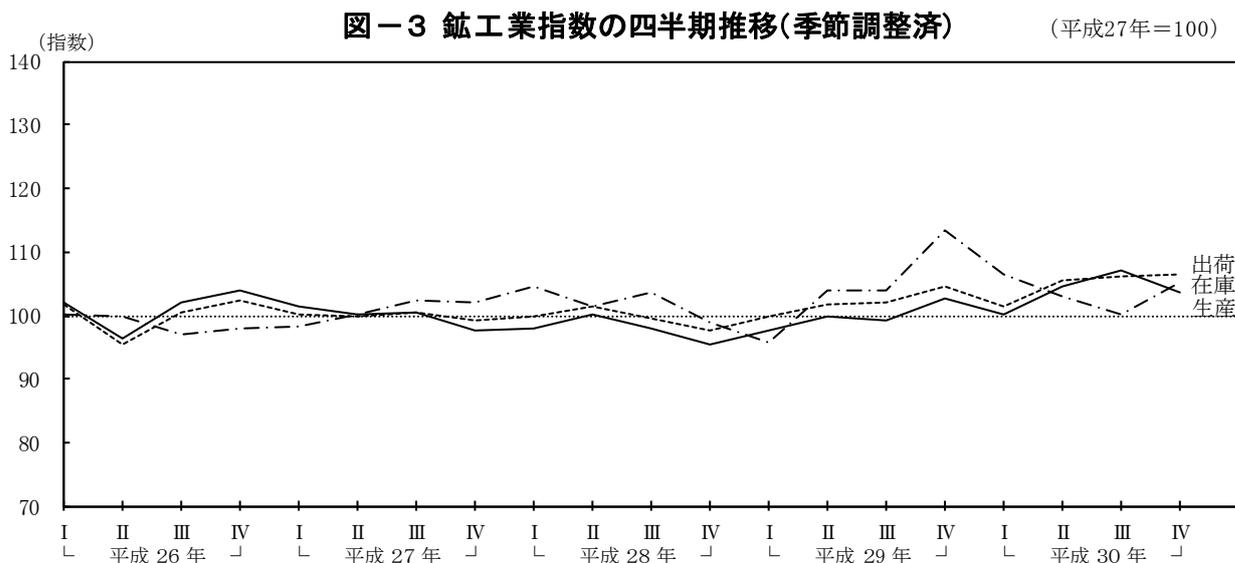
1 鉱工業指数の四半期推移

平成30年の生産指数を四半期ごとに比べると、第1期は2.4%の低下、第2期は4.4%、第3期は2.2%の上昇、第4期は3.2%の低下となった。

また、出荷指数は第1期が低下、第2期以降は上昇となった。

なお、在庫指数は第1期から第3期が低下、第4期は上昇となった。

(図-3、表-2)

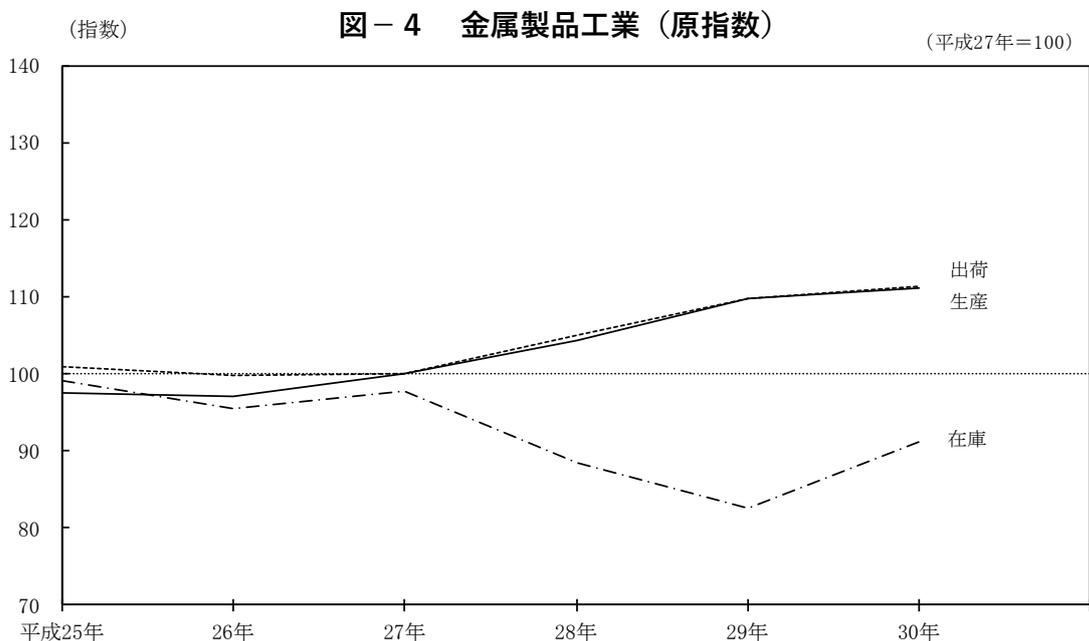


2 主要業種別指数の動向

(1) 金属製品工業

- ・ 生産指数は、ボルト・ナット等が増加したため、前年比1.4%の上昇となった。
- ・ 出荷指数は、ボルト・ナット等が増加したため、前年比1.5%の上昇となった。
- ・ 在庫指数は、包丁、はさみ等が増加したため、前年比10.3%の上昇となった。

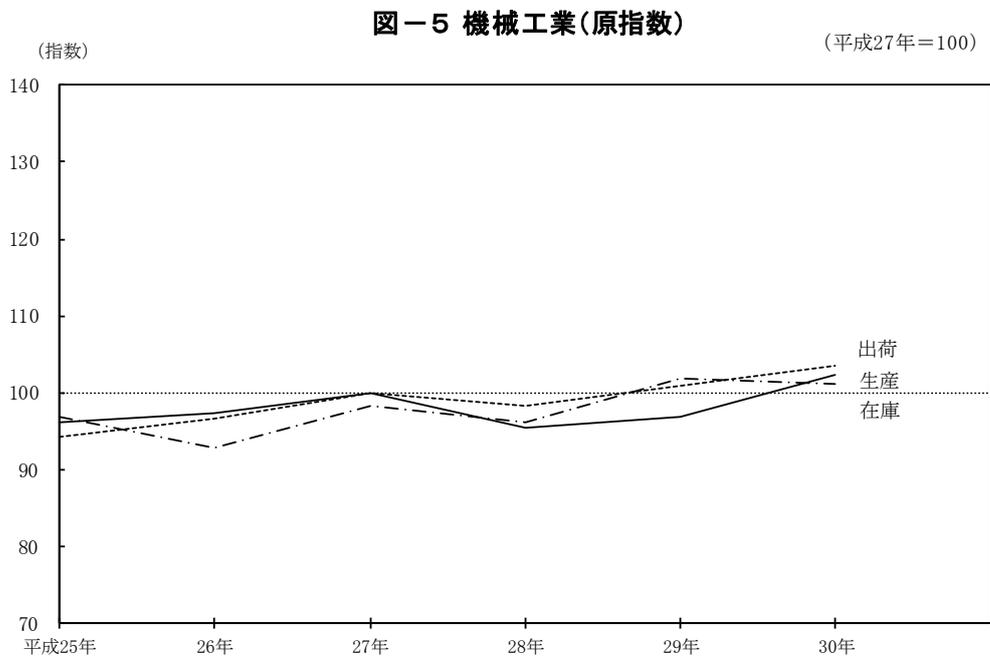
(図-4、表-1)



(2) 機械工業

- ・ 生産指数は、電気機械工業が低下したものの、汎用・生産用・業務用機械工業、輸送機械工業が上昇したため、前年比5.5%の上昇となった。
- ・ 出荷指数は、前年比2.5%の上昇となった。
- ・ 在庫指数は、前年比0.5%の低下となった。

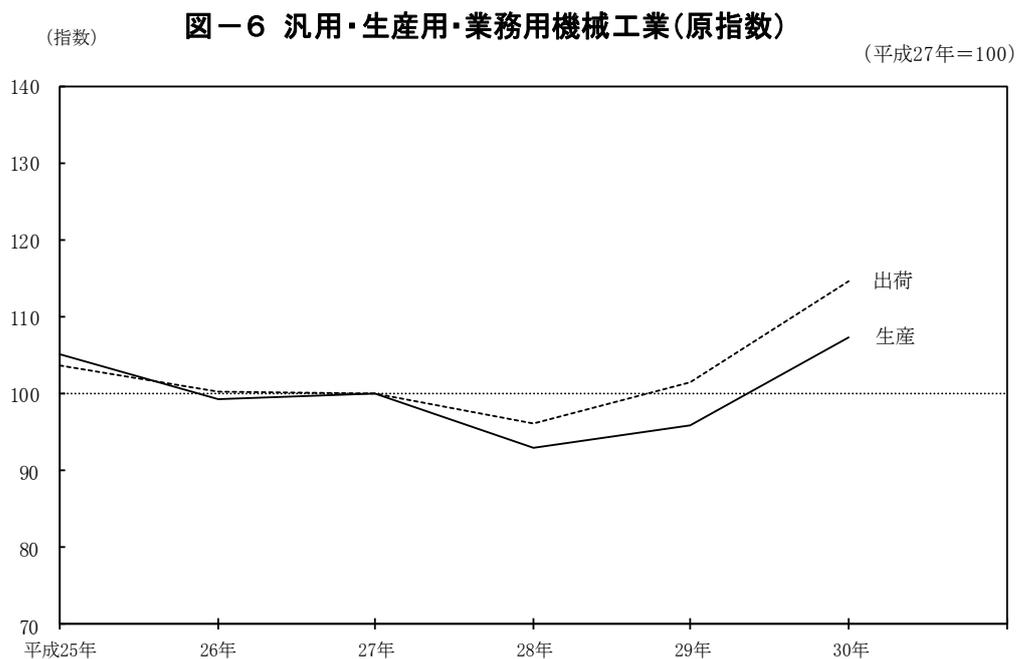
(図-5、表-1)



(2) -ア 汎用・生産用・業務用機械工業

- ・ 生産指数は、油圧機器等が上昇したため、前年比11.9%の上昇となった。
- ・ 出荷指数は、油圧機器等が上昇したため、前年比12.9%の上昇となった。

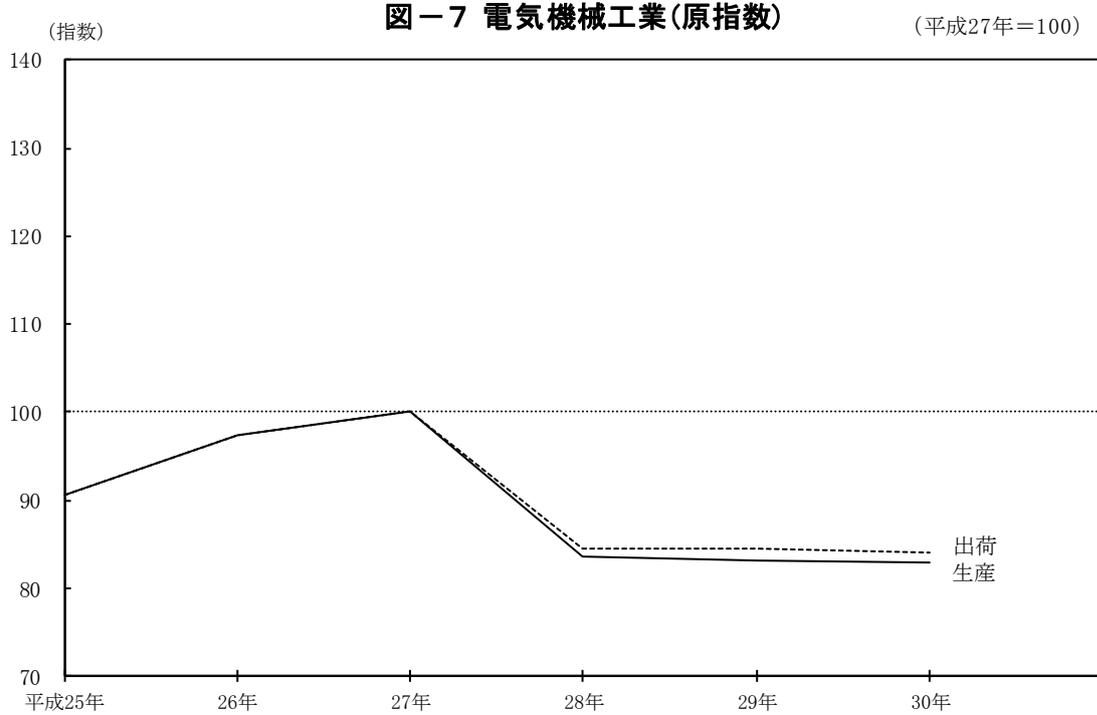
(図-6、表-1)



(2) イ 電気機械工業

- ・ 生産指数は、電子回路基板等が減少したため、前年比0.1%の低下となった。
- ・ 出荷指数は、電子回路基板等が減少したため、前年比0.6%の低下となった。

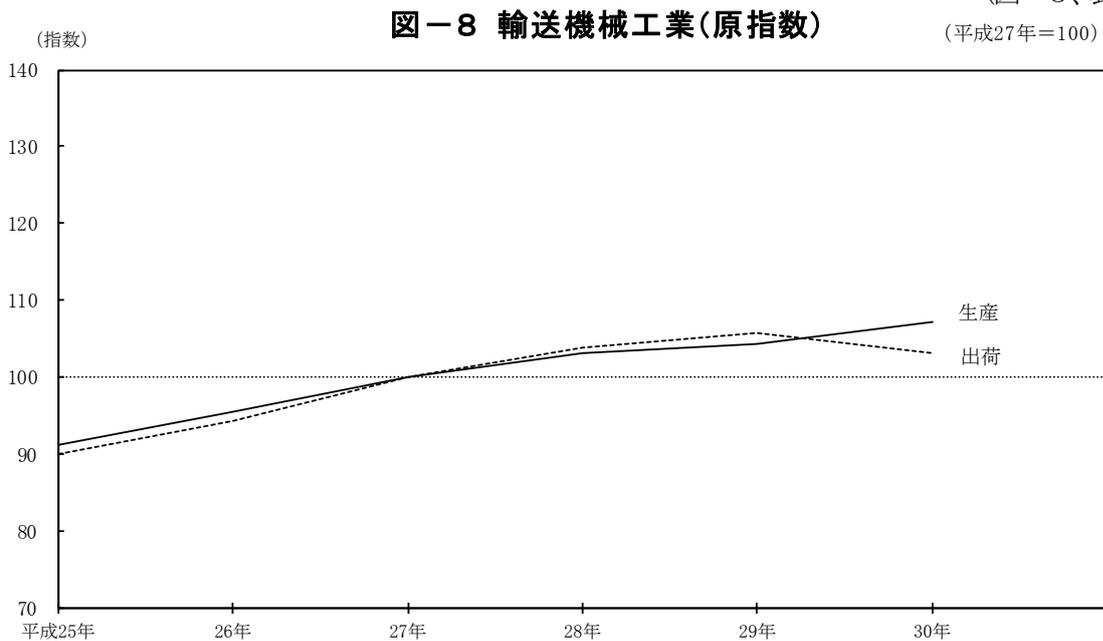
(図-7、表-1)



(2) ウ 輸送機械工業

- ・ 生産指数は、前年比2.7%の上昇となった。
- ・ 出荷指数は、前年比2.5%の低下となった。

(図-8、表-1)

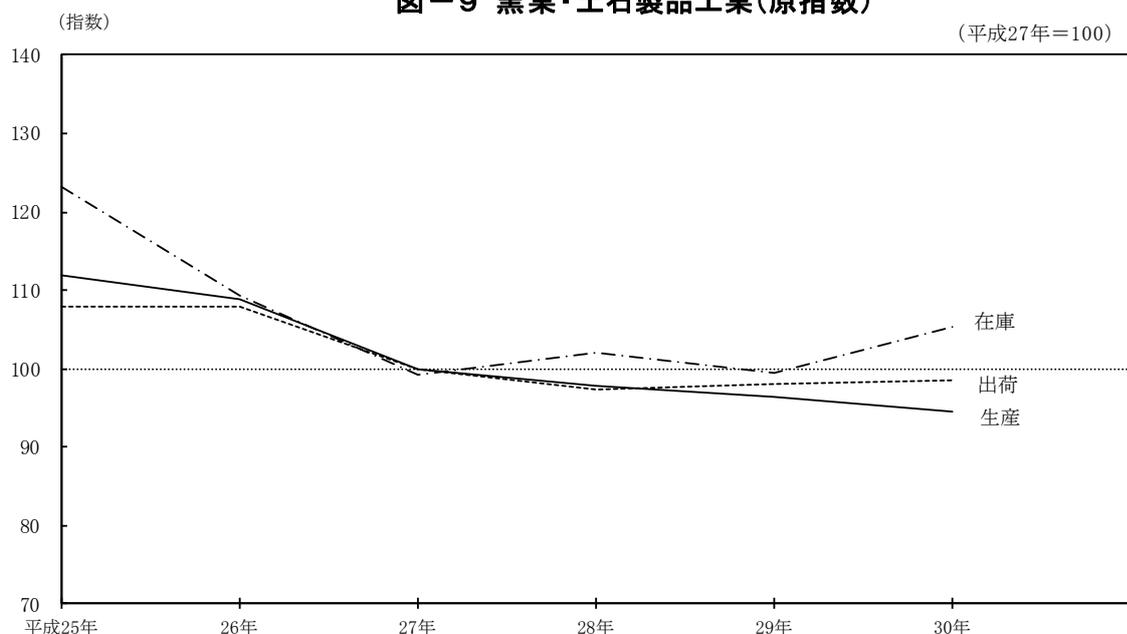


(3) 窯業・土石製品工業

- ・ 生産指数は、道路用コンクリート製品等が減少したため、前年比2.0%の低下となった。
- ・ 出荷指数は、生石灰等が増加したため、前年比0.5%の上昇となった。
- ・ 在庫指数は、触媒担体・セラミックフィルタ等が増加したため、前年比5.9%の上昇となった。

(図-9、表-1)

図-9 窯業・土石製品工業(原指数)

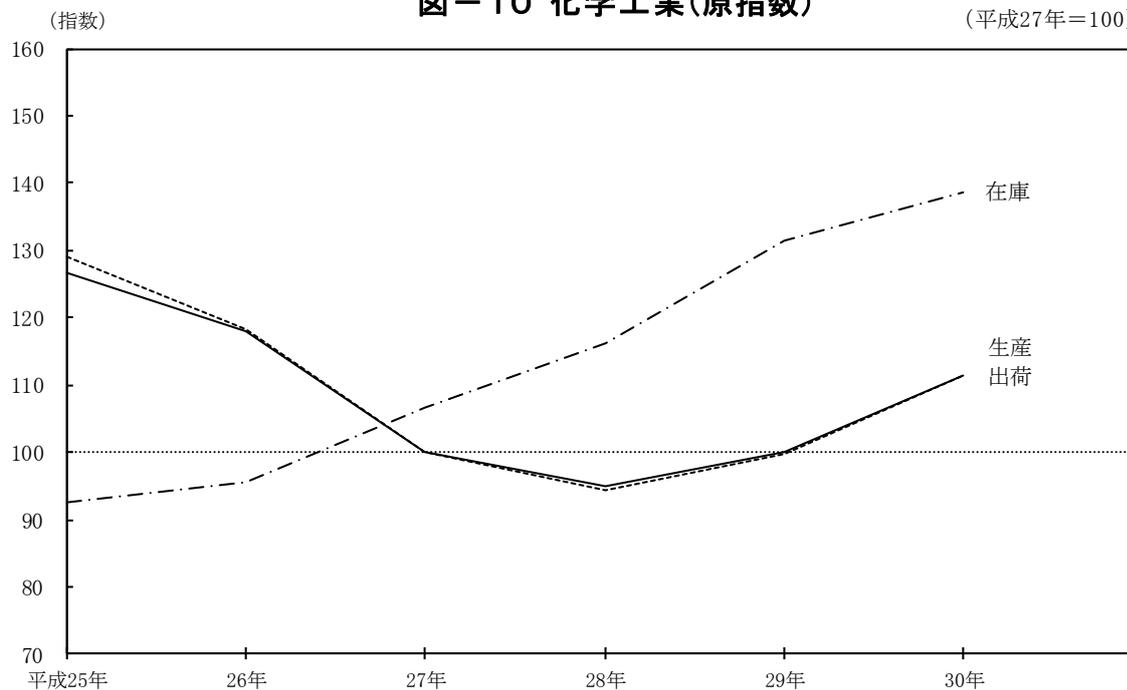


(4) 化学工業

- ・ 生産指数は、医薬品等が増加したため、前年比11.3%の上昇となった。
- ・ 出荷指数は、医薬品等が増加したため、前年比11.6%の上昇となった
- ・ 在庫指数は、前年比5.3%の上昇となった。

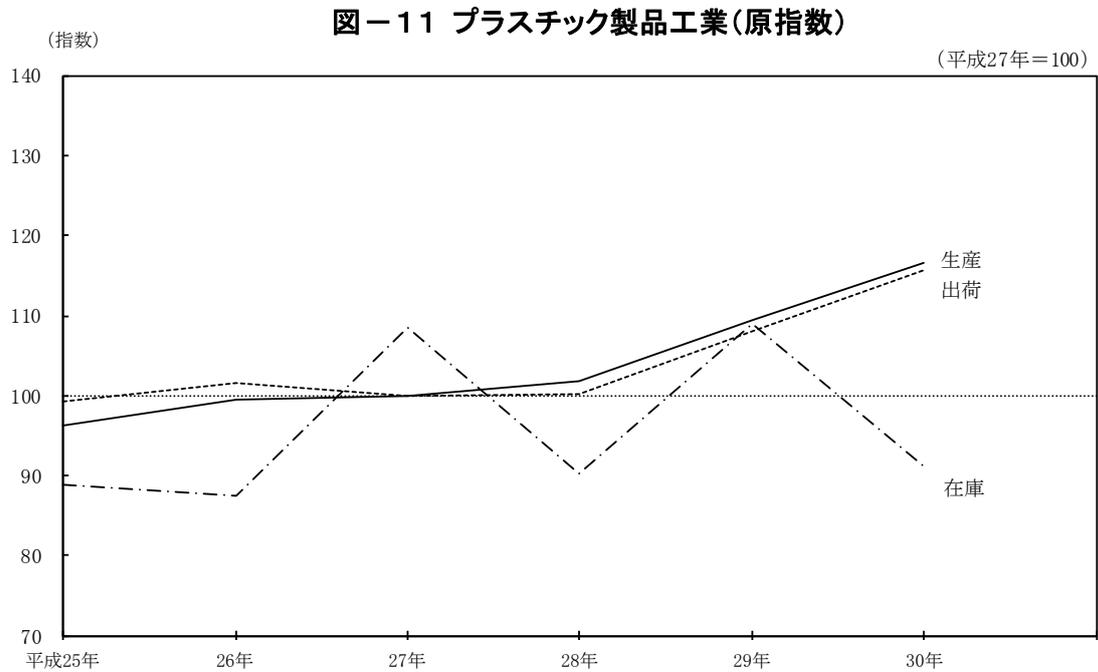
(図-10、表-1)

図-10 化学工業(原指数)



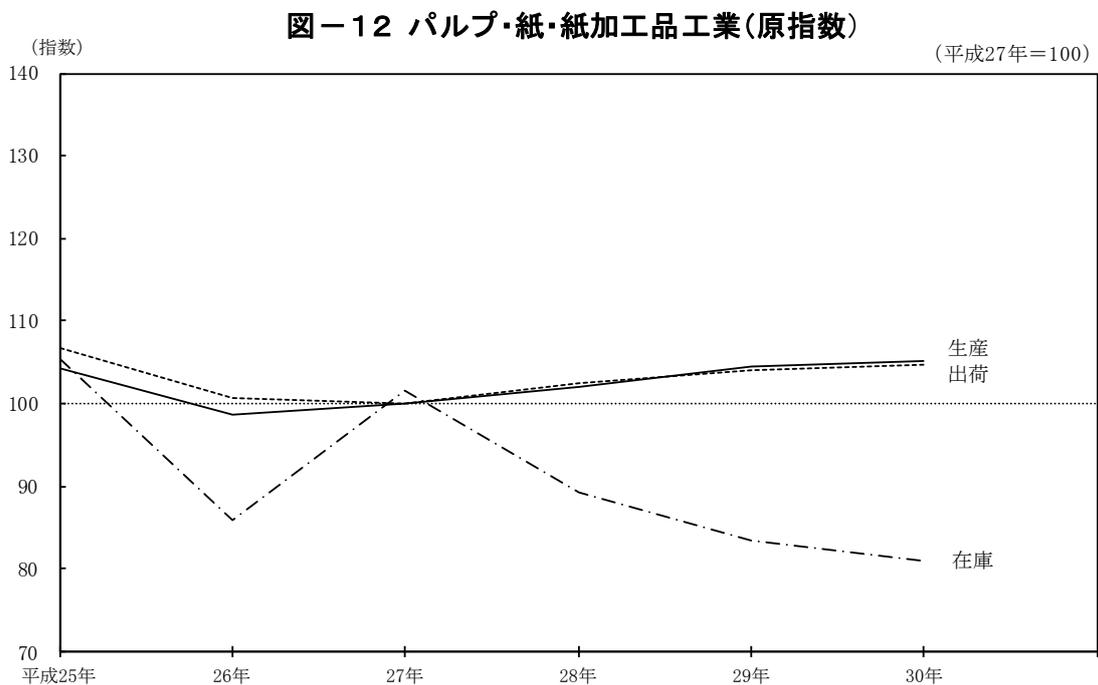
(5) プラスチック製品工業

- ・ 生産指数は、プラスチック製容器等が増加したため、前年比6.6%の上昇となった。
 - ・ 出荷指数は、プラスチック製容器等が増加したため、前年比7.1%の上昇となった。
 - ・ 在庫指数は、プラスチック製機械器具部品等が減少したため、前年比16.4%の低下となった。
- (図-11、表-1)



(6) パルプ・紙・紙加工品工業

- ・ 生産指数は、雑種紙等が増加したため、前年比0.7%の上昇となった。
 - ・ 出荷指数は、雑種紙等が増加したため、前年比0.5%の上昇となった。
 - ・ 在庫指数は、段ボール原紙等が減少したため、前年比3.1%の低下となった。
- (図-12、表-1)



(7) 繊維工業

- ・ 生産指数は、ニット生地染色整理等が減少したため、前年比4.7%の低下となった。
- ・ 出荷指数は、ニット生地染色整理等が減少したため、前年比1.0%の低下となった。
- ・ 在庫指数は、合成繊維糸等が減少したため、前年比19.8%の低下となった。

(図-13、表-1)

